

経営会議（４月２７日開催）議事概要

１ 開催日時

平成 17 年 4 月 27 日（水）10：00～11：25

２ 場所

本部棟特別会議室

３ 出席者

市川理事長、谷口副理事長（学長）、沼田専務理事(副学長)、高橋専務理事(副学長)、柳村純一委員、谷村邦久委員、深澤信夫委員、菊池武利委員
（事務局）

太田原副学長、細江教育・学生本部長、船生研究・地域連携本部長、久保宮古短期大学部事務局長、遠藤総務財務室長、吉岡教育・学生支援室長、佐々木研究・地域連携室長、古川副参事兼財務課長、高橋(啓)主査、小友主幹、立花主事

４ 会議の概要

- 会議資料は別添のとおり

【議 事】

（１）中期目標・中期計画について

- 高橋専務理事より資料に基づき説明があり、下記のとおり意見交換された後、了承された。
<主な意見交換>
- ６年間で各学部等の定員の増減はどうなっているか。
- ソフトウェア情報学研究科において、18年度から博士後期課程の定員を5名ずつ増員し、20年度に30名にする。
- 今年度入試では実質倍率が3.6倍となっている。しかし、今後ずっと維持できる保証はないため、高校への広報活動や入試制度の検討なども含めて定員割れをしないような教育・経営をしていくこととしている。
- 現在の安全管理に関する状況はどうか。
- 現在は、開学以来のマニュアルで対応しているが、法人化に伴い、見直していく。
- 予算について、収入のうち「その他の収入」とはほとんどが職員公舎料であり、食堂と売店からの収入も含まれている。教員の業績評価については学内に評価委員会を立ち上げており、そこで評価していく。
- 受託研究については現在テラヘルツ関係の研究実績がある。

（２）年度計画及び予算執行計画について

- 高橋専務理事より資料に基づき説明があり、了承された。（なお、年度計画は検討段階である旨説明があった。）

(3) 報告事項について

- 平成 17 年度入学者選抜結果、平成 16 年度卒業生の進路状況及び学生提案の概要について沼田専務理事から説明があった。

<主な意見交換>

- 県内入学者が 6 割に対して県内就職者は 3 割であり、このギャップを考えなくてはならない。県内の就職先の開拓努力が必要である。また、総合政策学部から県庁などの公的機関へ就職できていない。大学での勉強の内容と試験の内容のミスマッチがあると聞いている。
- 県から多大な交付金を受けながら卒業生が県庁に入っていないのは問題であると考えている。試験にはテクニックも必要であり、試験対策の勉強グループを作るなどの取組を行えば改善できると考える。
- 採用について当社の例だと、一定の学力水準があれば、やる気のある学生がほしい。作文についてはよく本を読み、どんなテーマにも対応できるような学生を望む。当社に採用された県立大出身者は真面目にやっている。
- 公務員への就職については以前から指摘されており、学部内にワーキンググループを立ち上げて取り組みも行っているところである。しかし、勉強会の立ち上げ等に学生が乗ってこないという状況である。成績が優秀な生徒でも、県より市町村を望む例もある。県庁が採用を控えていることも影響しているかもしれない。
- 生徒は今後県の役割が縮小していくことを見越しているのではないかと。県は無くなっても、市町村は無くならないと考えているのだと思う。県庁にこだわらず、県内への就職であれば、地域貢献は出来ているのではないかと。